

落水は出穂後 25 日以降！ できる限り遅く！

落水が早いと収量・食味・品質などが低下します！

○落水が早いと下記のような弊害が起こります。

- ① 収量低下
- ② 胴割米の増加による食味・品質低下
※ 特に近年の高温傾向では胴割米の発生が心配
- ③ 未熟粒の増加による食味・品質低下
- ④ 玄米タンパク質含有率の上昇による食味低下
- ⑤ 土壌中のカドミウム吸収抑制効果低下

胴割米



常時湛水管理の徹底で「良食味・高品質」な魚沼米生産！

- 落水は出穂後 25 日以降を徹底し、「胴割米」などの発生防止に向け、できる限り遅くしましょう。(8/10 頃までに収穫した場合は、出穂後 1 ヶ月以降の落水を目標)
- フェーンなど高温の場合は、常時湛水管理終了後も灌水を行いましょう。
- ほ場条件により、落水後に溝切りを実施するなどして水はけを良くしましょう。

常時湛水管理（北魚沼版）

出穂 3 週間前

【常時湛水管理のポイント】

- 高温が予想される場合は、やや深水管理とし、水温の上昇を防ぎましょう。
- 水温が上昇した場合は、新たな用水を入水するなど、水温の低下に努めましょう。

落水は出穂後 25 日以降！
できる限り遅く！

常時湛水管理終了後も高温時などは灌水

常時湛水管理の徹底で「良食味・高品質」な魚沼米生産！

カドミウム国内基準（食品衛生法）

【改正前】 1.0 ppm 未満 → 【改正後（現在）】 0.4 ppm 以下

- 平成 23 年 2 月 28 日から玄米及び精米で 0.4 ppm を超えた場合は食品として流通させることができなくなっています。
- 湛水（還元状態）でカドミウムの吸収が抑制されるため、常時湛水管理を徹底しましょう。

不明な点は農協営農センターまたは普及センターまでおたずねください。

携帯メール会員募集！タイムリーな稲作・気象情報を配信しています！登録方法は、営農センターへお問い合わせください！